

就職活動を振り返って

(株)日本長期信用銀行 佐伯和則

(経済学部 平成元年3月卒業)

広島大学を卒業し、日本長期信用銀行に入行してから、はやくも5か月が過ぎようとしている。現在、私は京都支店の店頭において債券業務を学んでいるところであるが、一見退屈そうに見える銀行の店頭も、実は非常に奥が深いものである。

当店の店頭業務においては、一般の預金業務とともに、金融債の販売などの債券業務を取扱っており、私自身も窓口において一日30人近くもの債券顧客を受けつけている。このような窓口での対話の中では、単純な債券の販売や乗換手続きにとどまらず、贈与や相続などの税金問題、動産・不動産を含めた財産運用にまで話題が発展していくケースも少なくない。特に顧客とじかに接する窓口では、自身の知識と経験の蓄積だけがたよりであり、また、自分の無知の部分を痛切に知らされるものである。そういった点では、就職における企業面接と類似した部分があるのかもしれない。

私の就職活動を振り返ってみると、私自身自分の将来について明確な方向性を持っていなかったことや、昭和63年度の企業の採用活動の期間が長く、業界によって採用時期がずれていたこともあって、かなりの企業を回り、様々な業種、様々な企業の先輩方にお会いすることができた。そして、どこの企業のOBの方も、非常に熱心に対応して下さったことをよく覚えている。

私の場合、企業を選択していく上での基準となったのは、その企業の業務内容と社風で

あったといえる。つまり、その企業自体がもつ成長性や将来性よりも、一人の人間として仕事に携っていく中で、いかに仕事に対する情熱や積極性を失わずにやっていける企業かどうかという点を重視したのである。こうした側面は、企業のパンフレットや資料だけでは、十分に判断できないだけに、OB訪問などによって、その企業で働く方の生の意見を聞く機会に恵まれたというのは、本当に幸運だったといえるだろう。

近年、売り手市場という言葉がよく使われているが、就職する学生にとって、本当に満足して働いていける企業は、そんなに多くはないはずである。これから、就職活動を始められる方には、自分の目と耳でじかに企業と接することによって、就職先を見定めていただきたい。そして、自らの選択した進路にすすむためにも、これまでの大学生活を振り返って、企業にアピールすることのできる自分の色を見つけ出していくことが大切なことだと思う。

